



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第396号

三密を避ける対策で

コロナ禍の中で、三密を避けるため、教会でも様々な対策がとられています。御ミサの二部化がそうですし、ミサ中の窓、ドアの開放。聖堂の椅子も密を避ける工夫をしています。又、信徒会館では、飲食禁止（ただし、夏場の熱中症を避けるための飲料水は可）、これまでは信徒間のコミュニケーションの場としてミサ後ゆっくりした時間をとっていましたが、早めの解散が勧められています。

すでに、9月13日に予定されていた「敬老のお祝い会」も、中止されました。今後予定されていた「大人の日曜学校」も中止となっています。

「御降誕祭」までほぼ3ヶ月ありますが、「小教区委員会」で決まった内容の変更を列記すると、11月2日（日）の「死者の日」の御ミサ・11月8日と11月22日に予定している大掃除の日も9時30分の合同ミサになります。ただ、いずれの御ミサも、密を避けるため、体調不良者、高齢の方の出席はご遠慮していただくことになりました。

また「共同回心式」も行われません。個人で「赦しの秘蹟」を授かることを勧めています。このほか12月に集中する「黙想会」「街頭募金」「御降誕祭後のパーティ」いずれも中止です。

「御降誕祭ミサ」は12月24日（木）20時、25日（金）10時のいずれか

一方の参加をお願いします。

それぞれの内容は、今後の「からしだね」あるいはミサでの「週間のお知らせ」等で告知して行きますのでご注意ください。



目的を見失わないように	2面
禁教時代に信仰を守り	3・4面
ガンバ2・奉仕者会	4面
幼稚園から	5面
教会学校より	6面
委員会報告	7面
お知らせ	8面
今月の聖人	8面



目的を見失わないように

主任司祭 フランシスコ・アシジ 谷口尚志

台風10号が過ぎた頃から急に秋の気配を感じられるようになりました。季節の移り変わり（特に猛暑の夏から秋への移り変わり）を実感すると、コロナ禍や地球環境の破壊、また自然災害などで傷ついている世の中であってホッと一息つくように促されているようです。コロナ禍の影響によって人類は生命的にも経済的にも甚大な被害を受け、今こうしている間も受け続けています。加えて自然災害も容赦なく襲い掛かり、行き場のない苦しみをもたらし続けています。痛み分けであることを自らに言い聞かせ、体にムチ打って日々を過ごしている人にどうか一息つける時が少しでもあるようにと願うのは私だけでしょうか。

現在、ワクチンがあれば人類の命も経済活動も救うことができるとし、充実した研究機関を保有する各国はこぞってワクチン開発に躍起になっています。もちろん、実現した暁には人類社会に大きく貢献することは間違いありません。しかし、教皇が指摘しているように、経済的な利得ではなく“すべての人のため”という目的がワクチン開発競争の中心に据えられなければならないことを念頭に置く人がどれだけいるのか…。

使徒パウロの言葉を思い起こしましょう。「弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。」（1コリント9・22）

すべての人のために良いものを創られた神ご自身の手の中で人類は生きています。一ヶ月にわたって<すべてのいのちを守るための月間>を過ごしてきたわたしたちが、その神ご自身の思いにこたえ、利得ではなくすべてのために尽くす者であることを自覚できますように。また、その姿が経済を回す根本的な力を生み出すことを悟りますように。

禁教時代に信仰を守り通した先人の誇りと高い志に、 魂が浄められる

福嶋東三子

コロナ禍の自粛中の数ヶ月は、日曜7時から十勝カルメル修道院のライブミサを受け、他の日は同じくネット配信の「日ごとの福音」と祈りに始まり、自宅にて学習(不動産コンサルの資格更新レポート作成)、時々小倉の不動産会社に通勤デスクワーク、時々畑作業とぶどうの剪定、摘果、袋掛け、月に一度は友人とカフェタイムとボランティア、夜は読書に明け暮れる一週間の繰り返し。自粛解禁となった今は日曜のミサの喜びと茶道のお稽古が再開されて私の新しい日常生活となっている。この間、遠藤周作の「沈黙」とは違う角度で描かれた隠れキリシタンの本との出会いがあった。

広報からしだね 392号で私が投稿した文章に共感された鳥栖教会の日高柳子さんのお手紙によって、「守教」著者帚木蓬生/ハキギホウセイ(2017年初版)を知り、直ぐに遠賀図書館にて借りてきた。

たくさんの歴史的文献を参考にされた文章は、架空の歴史物語ではないことが推察できる。豊後のクリスチャン大名大友宗麟によってキリスト教信仰が奨励されていた朝倉地方は、山々に囲まれて大庄屋の統括の下、貧しくも平和な暮らしをしていた。福岡藩主黒田長政と秋月領主となった息子黒田忠興、高山右近など戦国時代を信仰に生きた武将達。大庄屋と農民達その子孫が、秀吉のキリシタン弾圧から徳川幕府による禁教令、踏み絵、明治維新後の政教分離に至る迄260年もの長い時を、幾世代にもわたって、命を懸けて闘い守り続けた信仰の証の書。何時でも読める聖書が手元に無いもどかしさを感じながら主人公は、神父が説く教えと祈りを心に刻み、口伝えに継承していった。彼らは誠実なる働きで団結していた。飢饉の時や自然災害時にも助け合い乗り越えて年貢米を滞納する事もなく領主と藩主には信頼が篤かった。辺鄙(ヘンピ)な山間の村に度々訪れて、信徒に希望を与え続けた神父達の、使命感に燃える行動力には圧倒される。

現存今村カトリック教会天主堂は、磔の刑によって殉教した初代大庄屋の墓の上に、ペドロ岐部神父の予言通りに建立された。

150年前、本田保神父は13歳の時、明治初期長崎四番崩れの弾圧から逃れて生き延び、神学校に学び司祭の叙階を受けてこの今村教会に赴任した。建築費の窮状を世界中の教会に訴えて多くの献金が寄せられ、五島の教会群を建てた大工の鉄川与助の手によって建築された重厚な赤煉瓦の建物が、威風堂々とその歴史を刻んでいる(以上、太刀洗昔ものがたりより)

先日朝日放送ニュースステーション「明治時代ブラジルに渡った隠れキリシタン」という放送を私は尊敬の眼差しで観ていたが、今回「守教」を読んでこの報道と今村の歴史が完全に繋がり、信仰の自由を求めて異国の地に移住した人達が居ることを知った。～サンパウロを中心にして移住民1、2、3世により信仰が受け継がれている「保和会」は今1,500人余

りの信徒によって、祈り、親睦、互助を目的に運営されている。会の名称「保和会」は、本田保神父の保と神父を助けて働いた伝道師の青木和平の和から付けられたという。移住民の信仰の深さと望郷の美しい思いが伝わる～

翻って今を生きる私達は、聖書も、ミサも、祈りも全てを何処でも誰でも手にする事が出来る。自由が有る。神の恵みと「守教」を御紹介くださった、日高様に感謝申し上げます。



奉仕者会

皆さんの声掛けに感謝 海老津地区・樽角 樹祈

侍者を始めたキッカケは、松尾隆さんから声をかけられたことです。イ・スンヒョン神父様も初聖体の僕が侍者をすることに賛成してくれました。侍者を初めてした時は、イ神父さまの追悼ミサでした。その時の気持ちは初めての侍者だったのであまり覚えていません。ですが、イ神父様に直せつ、侍者の姿を見せられなくて残念だったのは覚えています。でも、イ神父様は天国で僕の侍者姿を見てほほえんでくれていると思います。

初めのころの僕は、ただ立って見学するだけで、今の僕のようにすすも鳴らせませんでした。けれど今の僕は、朗読をしている人の横に立つことができるようになりました。初めのころの僕とはちがい、すすも鳴らせるようになりました。今の僕と初めのころの僕を比べると大きくちがいます。でも、いまだに谷口神父様が、ミサを始める前にはすすを鳴らすじゅんびの時間、鳴らす時、回数を僕にかく認してくれます。

努力はしているのですが、皆さんもご存じの時々忘れてたり、間違ったりしてしまうことがあります。それに、ときどきミサにしゅうちゅうできていないことがあり、両親や神父様に注意されてしまいます。でも。信者の皆さんに「よくできたね」『がんばってね』とほめてもらえるのでうれしいです。だから、がんばって毎週教会に行き侍者をやっています。これからもがんばります。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 10月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<水巻聖母幼稚園>

幼稚園の子ども達は 10月のスポーツの日に向けて毎日練習を頑張っています。

可愛く体操する年少児の姿や、年中・年長児の堂々と身体を動かす姿に子ども達の成長を感じます。

普段の生活にも結びついて、外遊びの際にも身体を使って、より活発な姿が見られます。子ども達にとって実りのある行事です。



<マリア子どもの家>

台風10号の後、恐る恐る冷房の部屋を出て、園庭の木陰を頼りに、駆けっこや滑り台で遊べるようになりました。

又、畑に行って、伸び放題になっていた草を抜き、マリーゴールド・ケイトウ・アスター・ペチュニア・サルビア等を植木鉢やプランターに植えました。

オンブバッタや大きなアリも見つけました。

畑の上では、赤とんぼが飛んでいました！



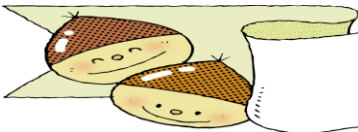
Tel: 050 5212 7759

HP: 水巻町マリア子どもの家

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同



教会学校のページ

今回は初聖体クラスの勉強がどんな風に行われているのかご紹介します。これまで14回の勉強会がありました。毎回、神父様が勉強内容の資料を子供たちにわかりやすい言葉でプリントしてくださっています。

ところが、勉強になっているのは子供たちばかりではありません。スタッフの私たちもわかりやすい言葉により理解を深めています。それどころか、恥ずかしながら「え～そういうことだったの?!」と初めて知ったという事実も!

クラスではその回の勉強内容がちゃんと理解できているか、子供たち自身が自分のこととしてとらえているか、復習、質問、書き取りを行っています。子供たちは、時々、伝えたい思いがヒートアップしてお話が長くなる神父様に、微妙な視線を送りながらも一生懸命に取り組んでいます!(^)!

プリントを見てみたいと思った大人の信者さんがいらっしゃいましたら、教会学校スタッフまでご連絡ください。

例えば祈りについて、一部を掲載いたします。

はつせいたいクラス ②

「いのりとは？」

★「いのり」とはなんでしょうか？「いのり」とは、おとうさんであるかみさまと、わたしたちをくっつけるものです。 [1]

そのかみさまとつながるためには、わたしたちのみえないところをたいせつに することがひつようです。だから、いのるときにはしずかに、そして、ミサではときどきみんなでこえをあわせていのったり、うたったりして、かみさまに ところをむけます。 [2]

★「いのり」のとき、みえないところをたいせつにしているひとは、きれいに てをあわせたり、おおきなこえでうたったりして、もっといのることができま す。なぜなら、そのひとはかみさまがよろこぶことをしているからです。そして、「いのり」はまわりのひとをたいせつにするところをそだてていきます。 「いのり」がかみさまとつながっているので、かみさまの、「みんなをたいせつ にして！」というきもちがまわりのひとにつたわるからです。 [3]

委員会等報告

2020年9月分

9月度小教区委員会 9月20日

1. 行事予定

- 10月 4日(日) 小教区委員会
- 10月11日(日) 聖堂ワックス掛け➡
11月8日(日)に延期
- 10月25日(日) 大人の日曜学校➡中止
- 11月 1日(日) 小教区委員会
- 11月 2日(月) 死者の日
合同ミサ：9：30
※この日のミサはこの1回のみ
- 11月 3日(火) 神学院祭
※オンライン開催
- 11月 8日(日) 合同ミサ 9：30
※この日のミサはこの1回のみ
ミサ後、聖堂ワックス掛け
- 11月15日(日) 七五三お祝い。
成人式案内状送付
- 11月22日(日) 合同ミサ 9：30
※この日のミサはこの1回のみ
ミサ後、大掃除、馬小屋飾り付け
- 12月24日(木) 降誕祭夜半ミサ
20：00から
ミサ後のパーティーは中止
- 12月25日(金) 降誕祭 ミサ
10：00から
※12/24、12/25の降誕祭ミサは
いずれか一方に参加してください。
- 12月27日(日) 初聖体
- 12月予定していた共同回心式・黙想会・
街頭募金は中止です。

2. 議題

(1) 各委員会報告

①納骨堂委員会

- 納骨を行いました
中間…中村さん、折尾…濱口さん

②営繕委員会

- スロープ修理
階段の工事が完了しました。

③広報委員会

- ホームページ作成の活動を開始
(8/22から)
福音宣教の目的のため、最適な情報発信方法、
情報入手方法を検討する必要があります。
←地区集会で意見集約をお願いします。
(例：メール、LINE、ホームページ)

(2) 地区名簿について

- 各地区で名簿を新しく作成します。
➡次回の委員会で今の名簿を各地区に配布、
チェックをお願いします

(3) 照明器具の取換え

- 聖堂および女性用トイレの照明の取換え
工事を行います。聖堂の照明の色は暖色系
LEDにします。

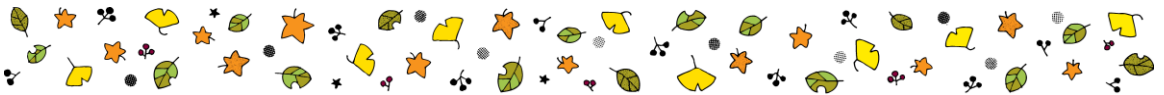
10月のおしらせ

★特別献金★

- ・9月13日 聖地のための献金
25,100円
- ・2020年九州豪雨支援金
158,900円
ご協力、ありがとうございました。

★北九州ホームレス支援について★

水巻教会の10月の弁当作りは、ありません。
その代わりに、信徒の方々に、米を持って来て頂きたいので、よろしくお願いいたします。(10月末まで)



今月の聖人 28日 聖シモン 聖ユダ使徒 1世紀

シモンは、イエス・キリストの12人の弟子であり、シモン・ペトロと区別するために、熱心党というグループに属していたことから「熱心党のシモン」と呼ばれている。彼は、カナン人であり、使徒のなかでも特に信仰が深く、モーセの律法を厳格に守っていた。

ユダは、イエスを裏切ったイスカリオテのユダと区別するために「タデオと呼ばれるユダ」といわれる。

彼は、新約聖書によると小ヤコブの兄弟であると記され、キリストの親類とされている。彼はキリストの昇天後、ユダヤ、シリア、小アジアなどで宣教したといわれ、64年ごろに小アジアの諸教会に書簡『ユダの手紙』を書き、信者たちが誤った教えに陥らないように警告し、祈り、神の愛にとどまるよう教えている(参照 ユダの手紙 4.8)。

のちの伝承によれば、シモンとユダはペルシャで宣教し、そこで殉教したといわれている。

